

令和7年度 青梅市立第一小学校学力向上推進プラン

青梅市立第一小学校長 実森 浩明

1 本校の児童の実態

令和6年度の6年生における「全国学力・学習状況調査」において、国語・算数いずれも、ほとんどの設問に対しても全国・都平均に到達できていない。また、設問内容によっては無回答が多いことから課題が見えてくる。このことは、問題に正対し、自ら考えようという学びに向かう力に課題がみられることを表している。「知識・技能」「思考・判断・表現」いずれも都平均より3ポイントほど下回っている。ここ数年間の推移では、着実に平均に近づいてきている。基礎・基本を重点にした指導を積み重ねてきた成果ともいえる。引き続き基本的・基礎的事項の理解を課題として取り組んでいくことが必要である。

4～6年生の意識調査でも、根気よく取り組む姿勢や学習の方法や内容を自分で考えながら学習を進めるという設問に対し、肯定的な回答が都の平均より下回っており、ここでも意欲面での課題が見られる。

このように、自ら学びに向かう意欲と基本的な知識・理解が十分に定着の両面で課題が見られるが、一昨年との比較では向上が見られる面もある。このことは、昨年度より校内で取り組んでいる学習意欲の校内研究の成果の一端とも見て取れる。意欲に関する研究をさらに深めながら、知識・理解を活用して、自分で学び深めていく力の課題も解決していく。まずは学習や課題に意欲をもたせること。そして、基本的な知識を身に付けさせるとともに、自ら考え解決していく力をつけていくことや、さまざまな教科で、自分で考え、自分の言葉で表現する活動を大切にしてく必要がある。また、家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図っていく必要がある。

2 学力向上推進プラン

(1) 学びに向かう力の育成

- ① 校内研究の研究主題を「意欲的に学習に取り組む児童の育成」とし、年間を通して児童の学習意欲と教師の指導力を高める。
- ② 研究推進委員会を中心に学びに向かう姿を高める先行研究や実践を紹介するなど、組織的に実践力を高めていく。

(2) 基礎的基本的な学習内容の習得

- ① 「学びの約束」《授業あいさつ、返事、話型、聞き方、書き方、持ち物など》を徹底して学習規律を確立し、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ② 朝学習に計画的、かつ確実に取り組み、国語科、算数科における基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。また、朝学習に読書活動を推進し、児童が進んで本

に親しむようにする。

- ③ 放課後ステップアップクラスでの個別指導を意図的・計画的に実施して、個に応じた指導の充実を図る。
- ④ 「東京方式 習熟度別指導ガイドライン」に基づき、算数科における習熟度別指導の充実を図り、成果を定期的に検証して個に応じた指導の工夫、改善を図る。また、東京ベーシック・ドリルを活用し、児童のつまづきを把握して学習内容の確実な定着を図る。

(3) 日々の授業改善

- ① 一人一台端末を活用した指導方法の工夫の取組を通して、すべての学級で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
- ② 個別最適な学びの視点から、一人一台端末の活用方法について、職員室で実践共有を行い、学級・学年の横断的な活用の展開を図る。
- ③ 授業の視点を「ねらいと手立て」にしぼり、週の指導計画の中にも明記しながら計画的に指導に当たるようにする。
- ④ 授業の構成を「板書と発問」でとらえ、授業改善を図る。

(4) 特色ある教育活動の活用

- ① 「学びと心の育成事業」を実施し、ボランティアを活用しての読書 活動の推進や学習の支援活動、和太鼓などの伝統・文化活動、自然環境と関わる活動等により、児童の学力の向上や健全育成を図る。
- ② 地域の環境・自然・文化及び人材を生かした創意ある教育活動を推進し、郷土や地域を愛する児童の育成を図る。地域の伝統行事への参加など地域に根ざした教育（青梅学）を推進するとともに、地域の人材を活用して地域の歴史や伝統・文化を理解し、地域社会の形成に参画しようとする態度を養う。
- ③ 学期毎の読書週間、図書ボランティアの活用、読み聞かせ活動などの取り組みや、周知・徹底し、読書の意欲を高める。